

令和3年12月1日



学校だより

東京都立石神井特別支援学校

主体的・対話的で深い学び

副校長 小川達夫

街路樹も葉を落とし冬の訪れを感じる季節となりました。早いもので、今年も残り一か月となり、学校では、日頃の学習の成果を発表する学習発表会の時期となりました。

今年度の学習発表会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、三密を避け事前に動画撮影をして、保護者会等で動画上映することといたしました。児童・生徒一人一人が学習の成果を発表できるよう、どの学年も思考を凝らした内容となっていますので、御期待ください。

先日、中学部1年生では、「生活単元学習」の授業で「石神祭（いしがみさい）」というお祭りを実施しました。この学習では、生徒が、主体性を発揮して活動に取り組むこと、話し合い活動を通して自分たちで決めるという経験を積んでいくこと、生徒同士が協力し合うことなどをねらいとしました。お祭りを開催するにあたり、一か月以上にわたる単元設定をし、準備を進めてきました。美術では、会場に飾る提灯を作成したり、音楽では、お祭りで踊るダンスや東京音頭の踊りを覚え、練習したりしました。また、各学級で、出店の内容について話し合い、「お面屋」「ヨーヨー」「魚釣り」「スーパーボールすくい」「写真屋」「受付」などやりたいお店や担当を自分たちで決め、売り物も自分たちで手作りしました。

売り物の準備では、タブレット端末を活用して下絵となる画像を検索する、下絵を描く、色塗りをする、ハサミで切り取る等、様々な工程をそれぞれの生徒が、自分の得意なことを活かしながら役割分担をし、友達と力を合わせて準備を進めました。

待ちに待ったお祭りは、長い準備期間を経て、これまでの集大成として一日限りの開催です。生徒一人一人が、準備から片付けまで主体的に活動し、お客と店員に分かれて時間で役割を交代し、対話を通じた和気あいあいとした雰囲気の中、お祭りを成功させることができました。

今回の「石神祭」では、国語や数学、美術、音楽、保健体育などの教科指導で身に付けた力を総合的に活用し、お祭りという題材の中で力を発揮し、友達と協力しながら、自分の役割を担うことができたことで、多くの生徒が、達成感を得ることができたと思います。

今後も、様々な学習を通して、一人一人の児童・生徒が興味・関心をもって学習に取り組み、新たな学習指導要領で求められている主体的・対話的で深い学びができることを大切にしていきたいと思います。